

平成25年度事業報告

《医師会事務局》

1) 公衆衛生向上及び社会福祉増進を図る事業（地域保健・学校保健・母体保護・産業保健・福祉医療 2) 医道の高揚・医学医術の発展普及を図る事業 3) 会員相互扶助事業の業務 があるが、学校保健では、昨今の少子化に起因する小中学校の統合や閉校に伴う学校医の配置、または、関連の予算措置について、教育委員会と連携し、児童・生徒並びに学校医、それぞれの立場での有用な施策が講じられた。

また、福祉医療においては、超高齢化に向けた国策である地域包括ケアシステム構築に向けた在宅医療等の推進に、八代地域在宅医療等推進検討委員会（通称：5者会議 構成：八代市医師会・八代郡医師会・熊本県八代保健所・八代市・氷川町）を立ち上げ、今後重要視されている八代市との連携が図られている。

《看護学校》

在学生のための看護師育成奨学金貸与制度が定着し、就学支援体制の整備が充実、看護師国家試験及び准看護師検定試験では、常に県内トップクラスの合格率を堅持している。

また、准看護師課程では、推薦・一般入試に加え、社会人入試を取り入れ、幅広い年層での入試枠を設けるなど、八代地域に定着する保健・医療・福祉のそれぞれの分野で専門性を活かした有能な看護師及び准看護師養成が図られた。

《健診検査センター》

健診センターについては、所内及び検診車のX線装置機器のデジタル化と健診システム更新に向け、担当理事を中心とした検討を重ね、平成26年1月理事会並びに3月31日の臨時総会で承認が得られ、八代地域の重要な健診施設として、行政や地域住民のニーズに応え得る体制が整備された。

検査センターについても同様に、検査機器と検査システム更新に向け、八代地域唯一のラボとして、信頼ある精度管理を堅持しつつ、緊急及び24時間対応の検査体制が更に整備された。

《訪問看護ステーション》

八代市において、唯一医療的な立場から在宅介護支援及び訪問看護を一体的に対応し得る体制を保持しており、医療依存度が高いケースを重点的に対応している。

また、多職種との各種会合に出席し、地域包括ケアシステム構築に向けた在宅医療の推進における訪問看護ステーションの重要性と保健・医療・介護・福祉などのリーダー的存在としての位置付けに努めた。

《医師会立病院》

入院平均稼働率及び外来患者利用数は安定して推移しており、医師及びスタッフの専門性を活かした、主に小学生を対象とした小児リハビリテーションが定着、利用数も増加しており、八代地域における医師会立共同利用施設として、病診・病病連携なども含め地域医療の一翼を担う重要な位置づけとなっている。

《夜間急患センター》

延べ人数3,465名（内科549名・小児科2,779名・外科111名・整形外科26名）1日当たりの平均患者数9.7名の利用状況である。感染性胃腸炎やインフルエンザ流行期における看護師などの増員・配置計画も事前に整備され、利用者のニーズに十分対応できる体制が整備された。